

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地	佐賀県佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	平成27年2月12日	評価結果市町村受理日	平成27年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

正看護師を確保し、グリーンクリニック・セコムとの24時間オンコール体制を取り、利用者様が安心安全に暮らせる体制を整えています。利用者様の生活を支える、ご家族様・職員一同が一丸となり、利用者様の一人一人が、和気あいあいと最期まで楽しく美しく、穏やかで温かい生活を送って頂ける事を目指し、日常生活行動を通したりハビリリに加え、手づくりパックでエステをし、食事だけでは不足しがちな栄養を、プロテイン・酵素・ヨーグルトサプリ・ヨーグルト・フィットケミカルスープを用いて摂取して頂き、また、入居者同士・ご家族・スタッフ・地域の方々との関わりを通して、身体内外や精神面など総合的に健康な身体づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯に位置し、各居室は全室南向きで日当たりが良く、ゆったり流れる川を見ることができる。「和気あいあい」を理念とし、大きな一つの家族のような雰囲気です。ホームの特徴として、他種の野菜を煮込んだスープやヨーグルト、プロテインの提供や、手作りのパックや保湿剤の使用など健康と美容に取り組まれている。また、看護師が常勤し、かかりつけ医との24時間の医療体制により、看取りの実績もあり、希望に応じて最期まで安心して生活できる場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	訪問者の目に付きやすい、玄関スペースに施設理念を掲示している。職場での会話上に近隣者の話題を取り入れたり、会議や勉強会では理念に沿った取り組みが出来ているかを、検討したりしている。	理念は地域住民の意見も取り入れ作成され、簡単に覚えやすく、玄関への掲示やパンフレットに記載されている。日常的な会話や会議時に振り返りを行い、理念に沿った支援を心掛けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを大切に考え、地区運動会・公民館での催事には、出来るだけ多くの方の参加を呼び掛けている。H26年4月には創立8周年記念イベントを施設屋内にて開催し、地域の方々に介護の現場を感じて頂ける、交流の場となった。	敬老会や運動会など地域への行事には、積極的に参加されている。また、ホーム主催でのイベントでは演奏や障害者のダンスなどを催し、地域住民にホームを訪れてもらい交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	脊髄活性化法や、利用者ご家族様にご好評頂いている、手づくりのパック・ローション・ヨーグルト水を、地域の方々に使って頂いている。地域の方からの、日常や介護に関する悩みや相談などがあれば、具体的な対応方法や相談窓口などをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者ご家族様や地域包括支援センターの職員さんに参加して頂き、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1度開催されている。地域包括支援センターの職員や入居者の家族が参加され、ホームの現状の報告や、その他検討事項が話し合われ運営に活かされている。家族の参加は多いが、現在は地域の代表者の参加はなされていない。	地域の理解や協力をより得られるよう、自治会長や民生委員など、会議への参加を働きかける取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保護課、地域包括センター、佐賀中部広域連合等へ都度電話連絡や出向き、相談にてサービスの向上を目指している。	保護課のケースワーカーや、地域包括支援センター職員の定期的な訪問があり、その都度、連絡や相談を行われている。各行政機関とは、相談しやすい関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自傷他害の可能性や、生命が脅かされる事故に繋がる可能性が著しく高い状態であり、リスク回避や入居者様の安全確保が不可能な場合、ご家族様や主治医への報告と相談・同意に基づいてのみ行い、不必要な拘束が実施されないよう議論を重ね、廃絶への取り組みを行う。	現在、家族の要望もあり、つなぎ服を使用されているが、家族の同意書等の書類が不足している。職員は拘束防止の研修に参加し、身体拘束に対する認識はあるが、伝達研修は行なわれていない。	やむを得ず拘束を行う場合には、同意書を取り、解除に向けた定期的なモニタリング・検討会など、記録に残されることが望まれる。また、介護経験の浅い職員が多いため、拘束に対する認識が深まるよう、伝達研修などの実施に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまでの経験や知識に加え、新たに学んだ知識を、会議や職員との会話中に取り入れ、知識の普及や意識化に努めている。また、ご家族や相談者の困っている事などを聞き取り、虐待予防のために対処策等をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の相談者に対し、成年後見制度を説明し、この制度を使われた方が、相談者本人と認知症を持つ家族との関係性が、保たれるのではないかとお勧めしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間の許す限りゆっくりと読み上げ、納得されたかを確認してから、署名捺印をお願いしている。場合によっては、一旦持ち帰り一読して頂き、不明な点が無かったか確認するなどの対応も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がいつでも外部との連絡が取れるよう、通信制限は行いません。また公共機関へ相談できるよう連絡先を掲示し、公共機関や、家族、親戚、友達等に意見、不満、苦情を確認、反映できるよう心がけている。	入居者の意見は、普段から聞くようにされている。また、家族の意見や要望は運営推進会議時や、面会時に聞き、運営に活かすように努力されている。意見箱を設置し、いつでも匿名で意見が言えるようにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議兼勉強会や、業務中に個々の会話中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛け、具現化できるように努めている。	毎月開催する職員会議時や、日々の業務時に職員の意見や要望を聞くようにされている。職員の交流会など行い、意見を言いやすい環境作りを行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤と休日の希望を、ほぼ全て聞き、子育て中の職員には、子どもの同伴出勤を可能とし、又、ペットの同伴出勤も可能とし、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修に参加してもらい、介護の質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や他のグループホームとの交流・情報交換により、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームに来てもらい、必要としている支援について、本人から聴けるよう、家族、職員を含め話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に、まずホームに来てもらい、職員、環境、雰囲気にも馴染んでもらえるか、家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをしっかり聞きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後最短1週間は観察・申し継ぎを密に行い、情報収集と情報の共有に努め、スタッフ全員が一体となって、必要としている支援を見極められるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、入居者それぞれの、出来るお手伝いを通して、入居者本人が安心して、職員と共に支えあえる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の抱く、本人への想いや困りごとの把握に努め、認知症症状の現状説明や、対応方法のアドバイスなどを行い、家族と本人との関係性維持・改善に努める中で、信頼関係が築けていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に対する制限なく、いつでもどなたでも、気軽に面会に来てもらえる環境づくりに努めている。又、会いたい人や行きたい場所などを聞き、実現できることを心掛けている。	知人や友人の訪問があり、気軽に立ち寄りしてもらえるよう配慮されている。家族の送迎で、自宅に帰られたり、供養などに参加されるなど、家族の協力も得て支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が、居室へ引きこもらないよう声掛けを行い、フロアで利用者間の交流を作れるよう介入し、歌や会話をもって、利用者同士が楽しく日常生活が送られる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁があり、ホームと関わっていても、入院、死亡はつきもので、家族にとっては思い出の場所にも成り得る。いつまでもご縁を大切にしたいと思い接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から、希望される暮らしを聞きとっているが、毎日本人の様子を見ながら支援している。	日頃の会話や表情で、各個人の思いや要望を把握されている。また、センター方式で家族からの聞き取りを行ったり、職員で話し合い入居者の思いを把握し支援を行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、本人、家族等から出来るだけ多くの情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動、他人との接し方、表情や言動、バイタルチェックを重視し、総合的に把握できるよう話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりをスタッフが担当し、本人の気持ちをくんだ介護計画を提案し、ご家族に納得してもらった介護計画を実行している。	各担当が本人や家族の要望を把握し、主治医や看護師の意見を取り入れながら介護計画を作成されている。日々の介護計画に沿った支援の記録や、定期的なモニタリングも行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録に、本人の行動、言葉なども書き入れ、職員の言葉かけも記入することにより、本人の様子がよく理解でき、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人生の集大成・振り返りの時期である、老年期を迎えられている利用者様方の日々の、勤行や参詣を取り入れ、残りの人生を楽しく過ごせるように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入れを行い、月一度ではありますが、童謡等の音楽を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と地域の医院との契約により、定期的な医療が受けられる。24時間安心した生活が出来るよう医療の協力体制を取っている。	希望に応じたかかりつけ医の受診を支援しているが、入居者全員が協力病院がかかりつけ医である。各個人月2回の往診を受けて、また、24時間連絡が取れる体制で、緊急時でも受診できるようにされている。他科受診は、家族や職員とで協力し付き添われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師を職員として配置し、適宜、最適なケアを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医と地域の病院・医院が連携をとり、スムーズに医療を受けられるよう手配して頂いている。入院時・入院中は病棟スタッフへ、普段の本人の様子や行動の傾向など、情報を提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで7名の看取りを行っており、悔いのない最期を迎えて頂けていると思う。状態の大きな変化時やご家族様が面会に来られる度に、最近の様子や状態説明を行い、本人にとってもご家族様にとっても、悔いの残らない人生の締め括りが遂げられるよう、支援している。	入所時に、重度化した場合や看取りについての指針を説明し、家族の同意を得られている。実際、数名の看取りを行われており、穏やかな最期を迎えられるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに看護師に連絡、Dr.に指示を仰ぎ、その指示に早急、的確に対応している。緊急時には、職員にも流れに沿って対応や連絡等してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等、災害時における避難誘導の実施、地域の人々による協力をお願いしている。	消防署の立ち会いのもと、日中想定で避難訓練を実施されている。家族や地域住民の参加もあり、避難誘導や、消火器の使用法の訓練など実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、個人情報の取扱いについては、その都度承諾を得ている。一人ひとりの尊厳について理解をするため研修に参加し、言葉かけや対応について心を配っている。	排泄や入浴の声掛けなど、プライバシーに配慮されている。研修に参加し、入居者の人格を尊重した支援を心掛けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切に、尊厳ある生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムや症状に悪影響が及ばない限りは、利用者のペースで、自由に暮らしてもらえるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ターミナル期の方でも、手づくりパックやローション、自然治癒力を高める美容液を用いて整容し、外見も最期までキレイでいられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえも手伝ってもらい、和気あいあいと皆と一緒に楽しくしている。普通食、全粥、粗刻み食、刻み食、ミキサー食、トロミ食等、残存能力に合わせお出ししている。	誕生会などの行事時には、赤飯や季節感のある食事を提供されている。また、希望に応じ外食に出掛けることもある。毎食事時、野菜スープやヨーグルト、プロテインなど健康に配慮したものを提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスによりプロテイン・酵素・ヨーグルトサプリをおやつや食事に取り入れ健康増進に努めている。水分不足にならないよう声かけ摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の口腔衛生を保つために1人ひとりの状態に合わせた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に対して支援が必要な方には、その方に合った対応を行なっている。バイタル表に排泄の記録を記入し、排泄のパターンを支援している。	排泄チェック表を利用し、タイミングを把握し支援が行われている。オムツを使用している入居者もいるが、各個人の能力に合わせた対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康増進・便秘予防のために、植物性乳酸菌のヨーグルトサプリや、病気を治すケミカルスープを3食提供し、便秘解消できている。現在、原因不明の続く下痢のある方に対し、ヨーグルトサプリを用いて、排便コントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	乾燥肌・痒み等の予防・改善のため、手作りヨーグルト発酵水や手づくりパックを体につけ、保湿するようにしている。	週3回入浴日を決め、希望の時間帯に支援が行われている。失禁などされた場合は、羞恥心にも配慮し、浴室への誘導や対応がなされている。手作りで保湿剤など作られ、皮膚の健康維持にも取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、布団を天日干しにし、毎週、枕カバー、シーツ、布団カバーの交換をし、汚れた時は随時交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認を常にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、お手伝いをしてもらうことで役に立っているという喜びを感じられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人員が確保できる時、本人の希望を聞き、仏様への参詣を行い、食事または買い物も、取り入れている。	近所の散歩時には、地域の方と挨拶を交わすなど日常的な交流が行われている。希望に応じ、ドライブや花見、買物、外食などの支援を行い楽しみにされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を持たない指導を受けており、希望する物は、家族の承認を得て買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎ等、自由に外部との連絡が取れるようにしている。 愛らんど便りを作成し、遠方でなかなか来れない方にも月末に手紙を添えて近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を全室南側にとり、廊下、リビングに天窓を作り、廊下、トイレ、浴室、脱衣室を広くとり、天井も高く威圧感を無くし、季節感を取り入れるようウッドデッキを南側に作りました。	廊下の壁面には、写真付きのお便りや、子どもが描いた絵などがたくさん貼られている。リビングはソファが置かれ、ゆったり過ごせる雰囲気である。建物全面に床暖房が設置され、自然な温かさを提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファとコタツを配置し、アットホームな環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度化した利用者も1人部屋で寂しくないよう一段高くなっていたリビング横の和室をバリアフリーにし一緒に過ごせるようにしている。	全室南向きで日当たりが良く、居室からウッドデッキに出られるようになっている。使い慣れたタンスや仏壇など持ち込まれ、居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洋間のリビングにスタッフの記録テーブルと椅子を置くことにより、利用者様が相談に来られた時には、一緒に椅子に座り、ゆっくり話し合いを持てるよう、環境を整えている。		